



千地申2号 「第38回定期大会」の発言等に踏まえた 申し入れ提出！

地本は「第38回定期大会」を開催し、職場現実の声に踏まえて向こう一年間の運動方針を満場一致で確認しました。

大会では、「ジョブローテーション異動により、今も休職している組合員がいる。異なるキャリアプランに対する管理者からのフォローが足りていない」「知悉度確認は職場の納得感がない。目的は日勤教育なのではないか」「乗務員による車いすの乗降介助は、安全を遵守できるような状態ではない」「お客さまが増えて現行の運営体制では、十分なお客さま対応ができない」「内房線での感電死亡事故は、京葉車両センター内で発生した同種事故を繰り返してしまった」など、JR東日本の安全や未来について不安を抱くような発言が多くの代議員から出されました。

また、春闘や夏季手当回答が、黒字転換を実現してきた社員への評価が低すぎることで、JR東日本の未来に不安を感じ若手社員を中心に退職者が増加しているという発言もされています。

地本は、「新生JR東労組運動宣言」のもと、組合員・家族の幸福と会社の発展を実現するために下記の通り申し入れを行いました。

《申し入れ項目》

1. 「新たなジョブローテーションの実施」にあたっては、労使議論や合意事項を遵守し、全組合員が納得感を持って担えるよう、本人のキャリアプランを尊重すること。
2. 乗務員職場で実施されている知悉度確認については、実施後速やかに受験者全員へフォローをすることにより事故防止に努めること。
3. 久留里線久留里～上総亀山間の交通体系に関して、国鉄改革のスキームに則り、沿線地域の発展に貢献すべく内房線との直通運転や、通勤・通学時間帯はもとより観光目的等の旅客流動にも対応した輸送体系とし、利便性の向上を図ること。
4. 車いす乗降介助や樹木の伐採、嘔吐物処理剤の散布等を乗務員が実施することになったプロセスを明らかにすること。なお、乗務員が担っている安全・安定輸送に対する責務が、これらの新たな役割によって阻害されることから中止すること。
5. インバウンド需要の回復により、成田空港駅の業務が逼迫している実態から出面数の見直しを図ったが、これまでの体制でも助勤等で補っていたことからどのように改善し、実施したのか明らかにすること。なお、混雑や要員不足によって改札業務等でお客さまに十分な対応が出来ないという声に対し、具体的な改善策を講じること。
6. 錦糸町駅の業務執行体制の見直しについては、間内改良によって体制を見直すことができる根拠を明らかにするとともに、実施前に社員の不安を払拭するため、社員説明をすること。なお、みどりの窓口を利用するお客さまの徒列が、コンコースを利用するお客さまの流動を阻害しないように整理するとともに、徒列整理ができない場合は施策を見直すこと。
7. 繰り返し発生している感電死傷事故の原因について背後要因を含めて明らかにするとともに、現場の声を踏まえた現実的に実行できる対策を講じること。
8. 過半数代表者選挙については、各職場で発生している公正・公平とはならない事象を是正するとともに、7月の各統括センター発足等において実施した過半数代表者選挙において、推薦人を選出した経緯を明らかにすること。

「安全・健康・ゆとり」ある職場と施策を実現するために団体交渉を行います！